

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 電力需要が鉱工業生産を押し上げ(05年6月鉱工業生産)

発表日: 05年7月15日(金)

~ 製造業では自動車部門の調整終了によって底打ち ~

(No. UI - 067)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001: seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

	鉱工業生産		製造業 (Industrial Production and Capacity Utilization)							設備稼働率	製造業 (NAICS)	生産能力
	前月比	前年同月比	製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連				
04/06	0.4	(+4.7)	0.1	0.5	2.0	+1.2	0.3	1.8	+77.8	+76.0	+0.1	
04/07	+0.7	(+4.8)	+0.8	+1.2	0.4	+1.2	+0.8	0.4	+78.3	+76.5	+0.1	
04/08	+0.1	(+5.0)	+0.3	0.4	1.9	+1.0	+0.3	+3.4	+78.3	+76.6	+0.1	
04/09	0.3	(+3.9)	0.4	2.7	+3.3	+0.6	0.4	1.2	+78.0	+76.3	+0.1	
04/10	+0.8	(+4.6)	+1.1	0.4	0.4	+0.9	+1.0	+3.5	+78.5	+77.0	+0.1	
04/11	+0.3	(+3.8)	+0.1	+1.8	+0.5	+1.8	0.0	0.6	+78.7	+77.0	+0.1	
04/12	+0.8	(+4.4)	+0.5	+0.9	+3.1	+1.6	+0.4	+1.2	+79.2	+77.3	+0.1	
05/01	0.1	(+4.0)	+0.3	0.7	3.8	+3.8	+0.2	1.7	+79.1	+77.4	+0.1	
05/02	+0.5	(+3.4)	+0.5	+2.4	0.6	+1.3	+0.3	+4.3	+79.4	+77.7	+0.1	
05/03	+0.2	(+3.9)	0.2	0.1	+3.6	+0.5	0.1	3.1	+79.5	+77.4	+0.1	
05/04	0.3	(+3.0)	0.2	+0.0	2.1	+0.9	0.2	1.6	+79.2	+77.2	+0.1	
05/05	+0.3	(+2.7)	+0.4	+0.2	0.5	+1.8	+0.4	+0.4	+79.4	+77.4	+0.1	
05/06	+0.9	(+3.9)	+0.4	+0.4	+5.3	+0.2	+0.3	+2.9	+80.0	+77.7	+0.1	

(出所) FRB

(注) 数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

鉱工業生産は公益の拡大により同+0.9%と市場予想を大幅に上回った

05年6月の鉱工業生産は、前月比+0.9%と市場予想の同+0.4%を大幅に上回った(4、5月合計で0.1%ポイント下方改定)。製造業が前月と同率の伸びとなったものの、鉱業が拡大ペースを速め、さらに電力等公益が大幅に上昇した。生産の90%を占める製造業(NAICS)は自動車、素材関連等の生産が加速したことによって2ヵ月連続で同+0.4%の伸びとなった(3、4、5月合計で0.1%ポイント下方改定)。もっとも、製造業では、拡大した業種数が19業種中11業種(5月13業種)と一部の業種主導による拡大にとどまっており、緩やかなに拡大している。公益は6月の気温が例年並みに上昇したことに伴い同+5.3%と大幅なプラスとなった。鉱業は同+0.4%と加速した。

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比率では、製造業生産は2月をピークに鈍化傾向を辿っていたものの、6月に+1.1%(5月同+1.0%)と鈍化に歯止めがかかっており、モメンタムが底打ちした可能性が高い。

稼働率は80.0%と前月の79.4%から大幅上昇

6月の稼働率は生産能力が前月比+0.1%にとどまった一方、生産が同+0.9%増加したため80.0%と市場予想の79.6%を上回り2000年12月以来の80.0%台まで上昇した。製造業は77.7%と5月の77.4%から上昇した。今後、緩やかながらも生産の拡大が続くことで、稼働率や期待成長率の上昇等を背景に、増産投資の拡大ペース加速が予想される。また、既に増産投資が拡大に転じていることから、今後生産能力の拡大ペースが速まることで稼働率の上昇ペースは抑制されるとみられ、利上げペースを加速させる要因にはなり難いと考えられる。

製造業生産は19業種中11業種にとどまっており緩やかな拡大

業種別では、鉱業は前月比+0.4%と加速した。公益は、5月までの気温が例年よりも低かった後、6月に気温が上昇したことを受け天然ガスが減少した一方、電力使用量が増加したことで同+5.6%となった。製造業では、木材、加工金属、電気機械、繊維、印刷が減少に転じ、

一次金属の減少ペースが加速した。さらに、一般機械、コンピューター・電子機器、家具・同関連製品、食品・飲料・タバコの拡大ペースが鈍化した。一方、増加に転じたのは、非鉄製品、紙、その他製造業。拡大ペースが加速したのは、自動車、航空宇宙・その他輸送機器、石油・石炭製品。減少ペースが鈍化したのは、アパレル・革、プラスチック・ゴム。化学は前月と同率の拡大ペースが続いた。製造業で拡大したのは、19業種中11業種にとどまっており一部業種が牽引する形での、生産拡大となっている。

自動車関連は、完成車が前月比+2.9%と加速したことに加え、自動車部品が同+2.3%と増加に転じたため、同+2.9%と加速した。自動車部門では、米自動車メーカーが6、7月と大幅なインセンティブの拡大を実施しており、自動車販売が好調に推移している。このため、在庫が大幅に減少していることから在庫の過剰感が解消されている。他方、堅調が持続しているハイテク関連は、コンピューター、半導体生産の堅調が続いた一方で、通信機器が減少に転じたことにより同+0.2%（5月同+1.8%）と鈍化した。

最終財、原材料とも増加

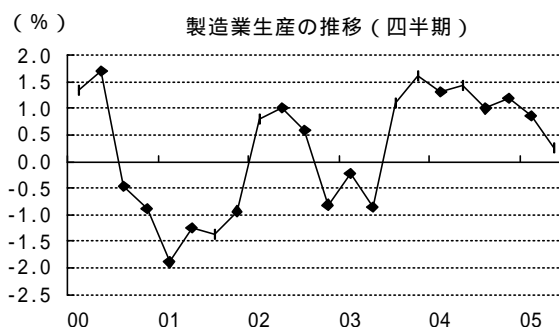
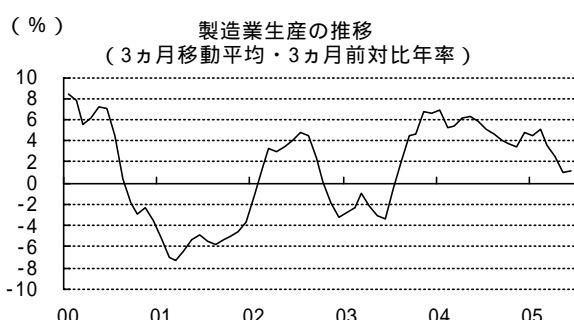
需要段階・財別の動向をみると、最終財・非産業財（全体の57.99%）では、建設財が減少に転じ、情報機器や産業機器といった企業設備が鈍化したものの、消費財、部品財、国防・宇宙関連が加速したため、全体は前月比+1.0%（5月同+0.6%）と加速した。一方、原材料財（全体の42.01%）では、非耐久財向け、耐久財向けが前月と同率の伸びとなり、非エネルギー向け全体で同+0.1%と増加した。一方、エネルギー向けは増加に転じたため、原材料財は同+0.7%と加速した。

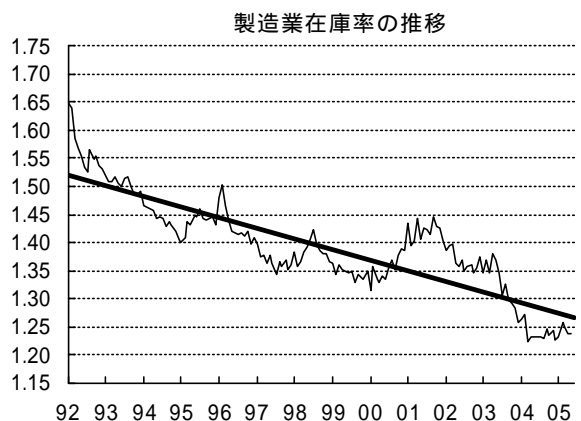
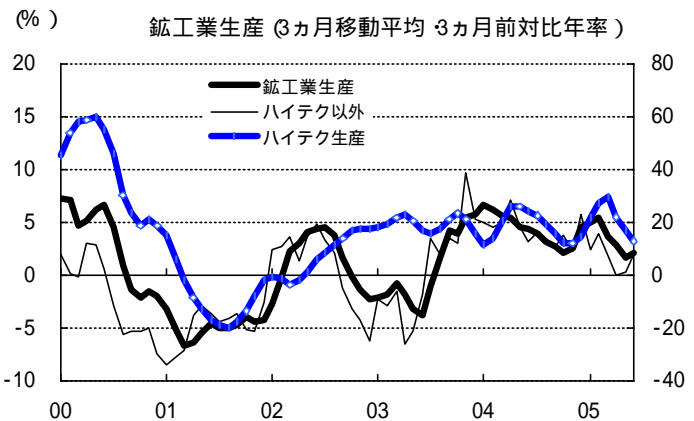
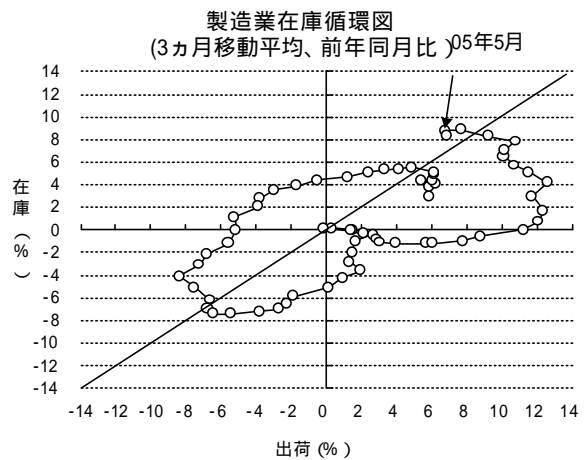
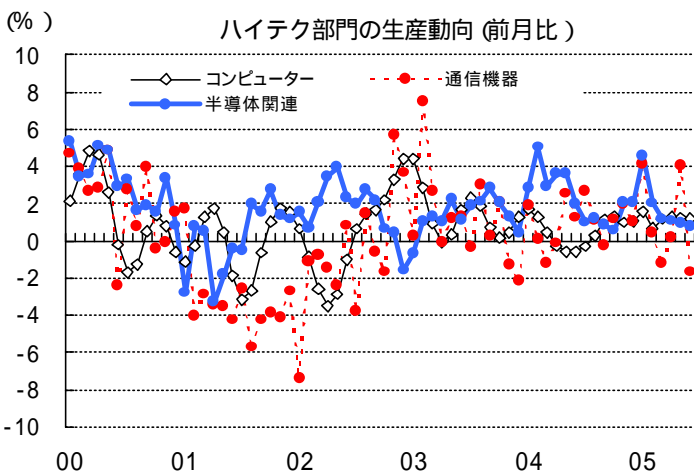
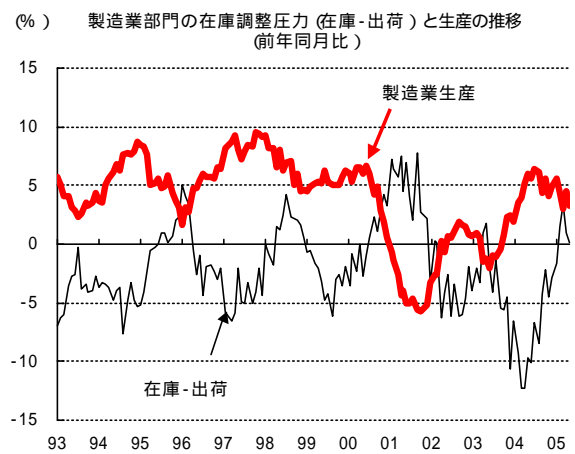
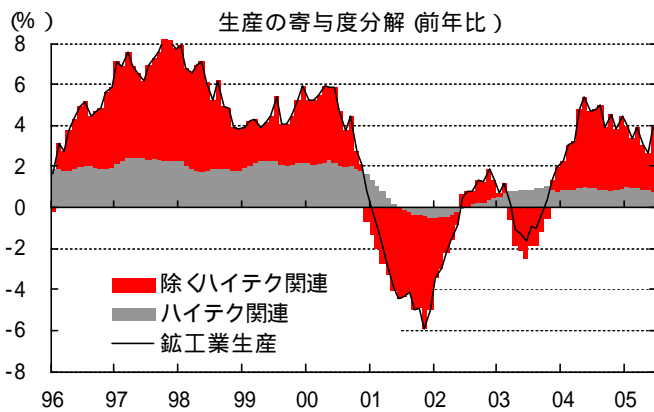
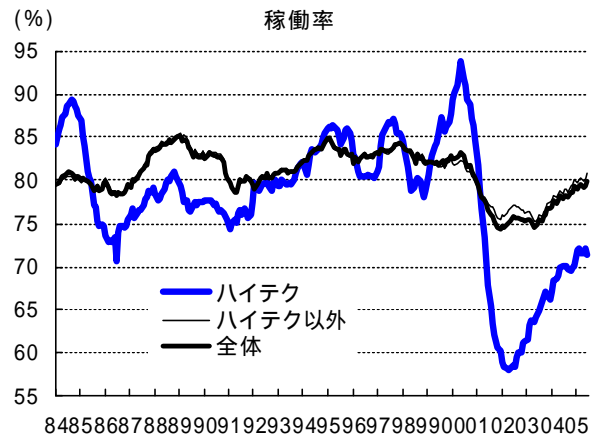
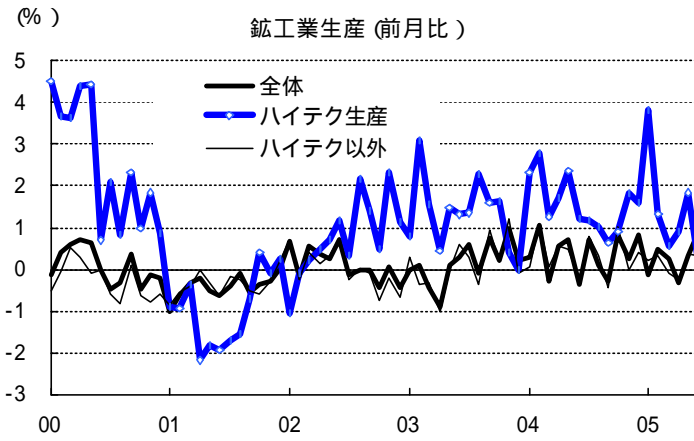
7～9月期以降製造業生産の拡大ペースは緩やかな加速が見込まれる

最終需要の動向では、個人消費は雇用・所得の拡大を背景に7～9月期以降も前期比年率+3%台の伸びが予想される。加えて、設備投資はこれまでの堅調な成長による期待成長率の高まり、キャッシュフローの拡大、2万5千ドルから10万ドルに拡大された中小企業の設備投資償却枠が2005年末で終了することに伴う需要増を背景に、好調を維持すると見込まれる。このような最終需要のもと、4～6月期に拡大ペースが大幅に鈍化した在庫投資は、7～9月期以降拡大ペースを速めると予想される。

外需に関して、輸出はドル安の押し上げ効果が期待できるものの7～9月期にかけて貿易相手国の成長鈍化が見込まれることから、拡大ペースが一旦鈍化しよう。一方、輸入は国内需要の堅調を背景に高い伸びが持続するとみられる。

以上のことから、年末にかけても潜在成長率程度の成長が予想される。このような中、4～6月期にかけて鈍化傾向を辿った製造業生産は、7～9月期には自動車部門に加えて、世界的なハイテク部門の在庫調整が終了するため生産の拡大ペース加速が予想される。ただし、日欧の景気拡大ペース加速時期が弊社見通しでは10～12月期に後ずれするとみられることから、生産は緩やかな拡大ペースが予想される。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。